

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 1 回高松市文化芸術振興審議会
開催日時	令和 2 年 2 月 2 7 日(木) 1 9 時 0 0 分～2 0 時 4 5 分
開催場所	高松市役所 1 1 階 1 1 4 会議室
議 題	(1) 会長・副会長の選任について (2) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の取組状況について (3) その他 今後のスケジュールなど
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	青山委員、甘利委員、鹿庭委員、北岡委員、島田委員（副会長）、多田委員、田中委員、水嶋委員、橋本委員（会長）、林委員、若井委員 計 1 1 人 (欠席 4 人 金川委員、鎌田委員、木ノ下委員、谷委員、)
傍 聴 者	0 人 (傍聴席 4 人程度を確保)
担当課及び連絡先	高松市文化芸術振興課 0 8 7 - 8 3 9 - 2 6 3 6

審議経過及び審議結果
<p>会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。</p> <p>(1) 会長・副会長の選任について</p> <p>高松市文化芸術振興審議会規則第 2 条第 2 項の規定に基づき、委員の互選により、橋本委員が会長に選任された。</p> <p>会長は、同条例第 2 条第 2 項の規定に基づき、島田委員を副会長に指名した。</p> <p>また、橋本会長から本日並びに今後の会議について、原則公開とすることを説明し、委員全員がこれを了とした。</p> <p>(2) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の取組状況について</p> <p>令和元年 5 月に策定にされた「第 2 期高松市文化芸術振興計画」に掲げる事業の進捗状況について、事務局から説明し、次のとおり意見があった。</p> <p>&lt;アートマネジメントの人材育成について&gt;</p> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成関連事業の予算は非常に少ないが、文化芸術プラットフォーム予算が未定のため、そこに人材育成関連事業を含めて力を入れていく方針か。</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の資料は令和 2 年度の実施内容を記載したもので、令和 2 年度の予算は記載</li> </ul>

できなかった。また、令和元年度の事業についての報告ができるのが来年度以降になるため、触れなかった。

<高松アーティスト・イン・レジデンス事業について>

(委員)

- ・基本的に予算はないのか。

(事務局)

・瀬戸内国際芸術祭開催年である令和元年度は事業を行わず、次の瀬戸内国際芸術祭までの2年間で3事業ずつ行う予定である。

<イサム・ノグチ庭園美術館の利用料負担について>

(委員)

- ・素晴らしい場所なので、小中学生のうちに必ず訪れ学んでもらえるよう、利用の促進を願いたい。

(事務局)

- ・従来は何人利用しても定額だったものが、監査委員の指摘もあり実績払いに変更となった。積極的な利用促進については、教育委員会に伝える。

<人材育成関連事業について>

(委員)

- ・事業で育成した人材を、美術館や建築を見学する際に派遣し、フィードバックでき、また、美術だけではなく、建築についても学べるような仕組みづくりを検討いただきたい。児童生徒を引率する場合でも、教員が知識を身に着ける場が必要ではないか。

<レンタサイクルのアート化について>

(委員)

- ・予算額が大きいのが、全てレンタサイクルのアート化の予算か。

(事務局)

- ・アート化を含むレンタサイクル事業全体の運営費である。

(委員)

- ・新しくサイクルポートが増えているので、協議して更に作品に繋げられないかと感じる。

<屋島山上拠点施設整備事業について>

(委員)

- ・どのようなものを作るのか。

(事務局)

- ・令和3年度中のオープンを目指している。

- ・屋根に庵治石を使い、ガラス張りの円形の構造となる。
- ・源平合戦をモチーフにパノラマ絵画とジオラマを融合させたアート性の高い展示や歴史文化を学べる場を作る。

(委員)

- ・名称は未定か。

(事務局)

- ・未定であるが、財政当局の指針より、ネーミングライツを検討している。

#### <都市景観の形成について>

(委員)

- ・景観についての重点地区や、建物の指定制度はあるか。環境整備の面で印象付けができると思われる。

(事務局)

- ・屋島や仏生山は景観地区に指定しているが、個々の建物が指定されているかは、改めて回答する。

#### <瓦町アートステーション自主事業について>

(委員)

- ・ファシリテーターワークショップはどのような内容で開催予定か。

(事務局)

- ・現時点では未定だが、各ファシリテーターと協議しながら、それぞれの専門性、得意分野を生かして決定する。

(委員)

- ・対話型の美術鑑賞のようなファシリテーションもあると思うので、ファシリテーターが、参加者が自由に発言して感覚的なものを引き出すワークショップを開発してほしい。
- ・対話による鑑賞を想起させるような文言を、事業のどこかに入れてほしい。

(事務局)

- ・提案に類似したワークショップを多田淳之介氏を招へいして令和2年の1月に開催するなどしており、今後も、提案いただいた視点でのワークショップを開発予定。

#### <学校巡回能楽教室事業について>

(委員)

- ・「各小中学校の希望が一部ジャンルに偏る傾向があり、実施に至らないメニューがある。」とは、どのような希望が多いのか。

(事務局)

- ・学校も何回もこの事業を行っているので、目新しい内容は希望が多く、邦楽は少

ない傾向にある。しかし、我々が提供したいメニューもあるので、調整に苦慮している。

(委員)

- ・ホームページ等での情報発信が重要だと言われているが、事業内容をホームページ等で公開しているか。事業の広報が評価につながるとも言われている。

(事務局)

- ・結果を創造都市推進局のフェイスブックに全回ではないが、概要を掲載している。

<文化芸術ホール自主事業について>

(委員)

- ・文化ホールが全国的に多角・多面的な役割を果たし始めており、高松市文化芸術ホール大規模改修もあるため、今まで行っていなかったような事業を検討してはどうか。

(事務局)

- ・文化活動支援をホールが担うのが理想形だとは考えている。丸亀市の例を参考に（ホール指定管理者である）文化芸術財団に働きかけていきたい。

<多様・効果的な広報戦略について>

(委員)

- ・「エクスペリエンス高松」は見やすく好評である。引き続き、継続に際しては運用に力を入れてほしい。
- ・単にPRのみではなく、反応が良かったジャンルやコンテンツを分析し、そこに注力するとより多くの人に見られると思われる。

<文化芸術プラットフォームの構築について>

(委員)

- ・具体的にどのような検討の場を設け、どのような仕様にする予定なのかのビジョンがあれば聞きたい。

(事務局)

- ・現時点では具体的に示せないが、素案の段階で審議会に諮りたい。活動内容、中心となる団体、既存の文化団体との関係等はこれから調査研究したい。

(委員)

- ・長期間継続されている高松市創造都市推進懇談会（U40）との関係性はあるか。組織が異なるのか。

(事務局)

- ・高松市創造都市推進懇談会（U40）は創造都市推進に当たって幅広く取り組んでいるが、プラットフォームは文化に特化したものになる。

- ・ 枠組みは別になるが、高松市創造都市推進懇談会（U40）の構成員の参加は拒まない。
- ・ 緩やかにつながるプラットフォームの構築を目指しており、文化活動を行う人、支援する人も入って新しい事業が生み出せるものになれば良いと考えている。

（委員）

- ・ プラットフォームの構築の時期は早まらないか。
- ・ 完璧なものを目指すといくら時間をかけても足りない。このままだと、第2期高松市文化芸術振興計画が終わる頃にできるようになる。
- ・ プラットフォームは複数人が自由に集まって話し合える場で、決定権が無くてもいいと考えている。
- ・ 構成員は当審議会と同一でも構わない。

（事務局）

- ・ 立ち上げ時に、核となる組織を作り、実効性のある団体にしたい。
- ・ 参考にしたい組織があるので、良い点、欠点を見て検討したい。
- ・ 予算の関係上、調査研究までに絞られたため、令和2年度については各所調整を含め、時間をもらいたい。

（委員）

- ・ 調査に関しても、何をどう調査するのか審議会でも知りたい。
- ・ 調査結果に対して、意見を求めるのは止めてほしい。
- ・ プラットフォームをどのような形にするのかから議論したい。

（事務局）

- ・ 会長と相談する。

（事務局）

- ・ 文化団体それぞれに高松市との関わり方があるが、過去関わっていない団体を含めて入ってもらう組織を作りたい。
- ・ 実現までが長いとの指摘だが、相談できる状態になれば、審議会に早い段階で話りたい。

（委員）

- ・ バランスよくまとめようとするのは困難だと思われる。まず、ひとつのテーマの下に集まる組織でも良いのではないか。そのテーマを決めないと前に進まない。
- ・ テーマは変わっていても良い。

（事務局）

- ・ 文化団体が共通の目的のもと取り組む場は、文化芸術ホールリニューアル後に迎える開館20周年だと考えている。遅れてはいるが、取り組みやすく、人が集ま

りやすくなったり、今まで無関係だと思っていた人も参加できるテーマを見つけられるようになるべく迅速に取り組む。

<0才からのコンサートについて>

(委員)

- ・前年度と同額の予算だが、人気が高いとのことなので、回数を増やせば良いのではないか。

<専門講座について>

(委員)

- ・文化芸術と関係はあるか。

(事務局)

- ・専門講座の中に文化的な講座があるので、事業として登録している。

<高松国分寺ホール自主事業について>

(委員)

- ・今後の課題に「瓦町アートステーションとの連携が停滞しているので、サポートが必要」とあるが、どのようなことか。

(事務局)

- ・高松国分寺ホールのアウトリーチを瓦町アートステーションで行っている。
- ・令和2年度からは、瓦町アートステーションを市民サービスセンターが運営することになるため、市民サービスセンターにノウハウを伝授する必要がある。

<高松市キャンパスメンバーズ制度について>

(委員)

- ・ほとんど美術関係の施設で常設展のみが対象だが、今後の拡充を希望する。

<障がい者アートリンク事業について>

(委員)

- ・事業所へアーティストを派遣しているが、共生社会の発想を持ち、事業所から障がい者が出て参加できるイベントがあっても良い。

<文化奨励賞受賞者記念披露事業（仮称）について>

(委員)

- ・「文化奨励賞受賞者の集い」を活かし、プラットフォームのような意見を聞ける場としても良いのではないか。

<芸術士派遣事業について>

(委員)

- ・絵画や造形の美術分野のみの内容か。

(事務局)

- ・ダンスや音楽的なものもある。

<香川漆芸魅力発信戦略事業>

(委員)

- ・漆芸も作品としてと、商品としてでは国、県、市も部署が分かれているが、この事業では一緒に行っていることを知っておいてほしい。

(2) その他 今後のスケジュールなどについて

(事務局)

- ・令和2年度は7月と2月に審議会を開催予定。
- ・提示できるものが作れ、要望があれば、プラットフォームについての審議会の開催も検討する。

以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以 上